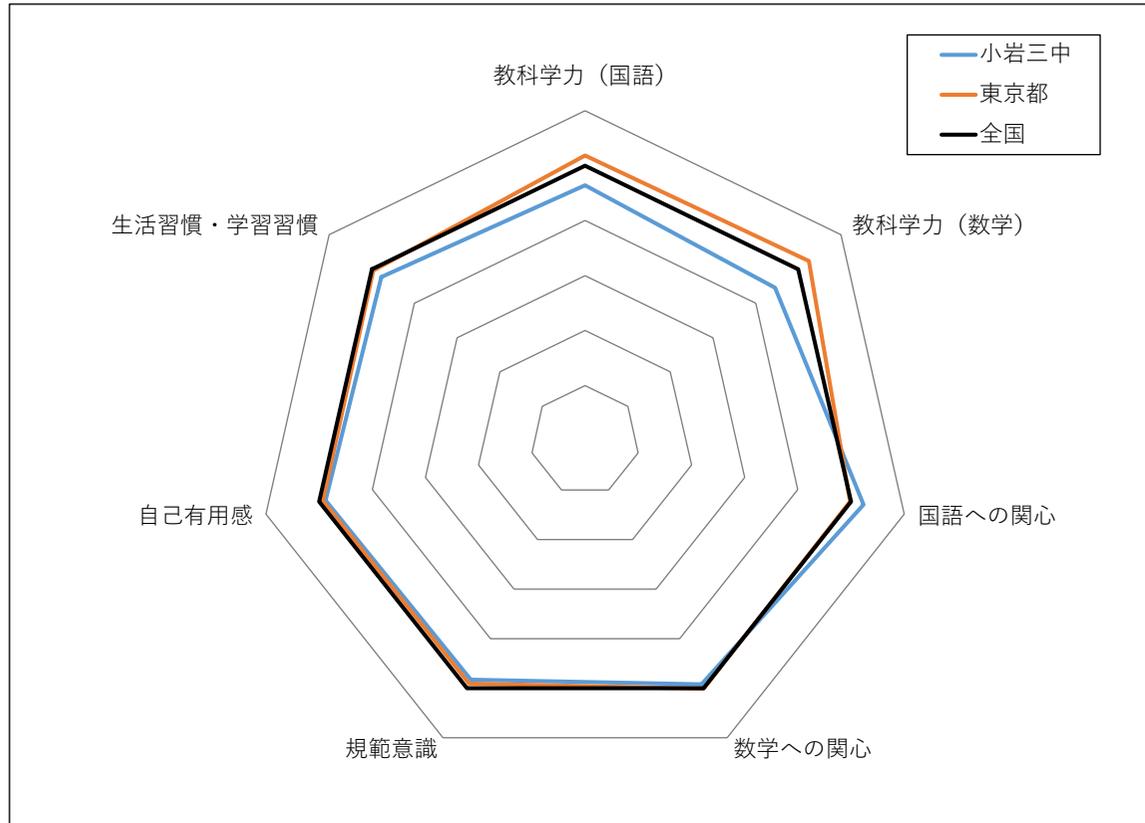


令和3年度全国学力・学習状況調査結果における課題分析表（中学校）

江戸川区立小岩第三中学校

●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《チャートの特徴》

- ・国語への関心は都や全国の水準を上回っていた。問題の区分について部分的に見ると「話す・聞く能力」についての正答率は高い値を示すものの、記述式の問いに対して苦手な傾向が見られ、教科学力を示す平均正答率は下回っている。
- ・数学への関心は都や全国の水準とほぼ変わらない。教科学力は数学的な技能を問う問題に対して高い正答率が見られたものの、記述式問題に対しては苦手な傾向が見られる。
- ・自己有用感、規範意識は東京都と比べてほぼ同じであった。
- ・生活習慣・学習習慣はやや都や全国の水準を下回っている。

《現状把握》

生活習慣の確立は全国と比べてほぼ同じ傾向だが、将来の夢や目標を持っている生徒が比較的少ない。家庭学習の習慣が全国平均と比べて少なく、学習の習慣化に課題がある。
 国語は質問の意図を的確に捉えることはできるが、語句や文の使い方、段落相互の関係に注意して文を書くことに課題がある。
 数学は全国の平均を下回り、数学的表現を用いた説明をすることに課題がある。

《授業改善のポイント》

国語科では文脈にそって内容を確認しながら、読む力を育む必要がある、読書活動などにて多くの読み物に触れる機会を意図的に作り、「読むこと」の楽しさや意義を感じさせる体験をさせる。
 数学科ではグラフの特徴を基に説明する力を伸ばす必要がある。
 データの傾向を的確に捉える課題に取り組みさせるだけでなく、関数を式・グラフ・表と関連付けて説明する課題に取り組む授業を行う。
 将来の夢や目標という進路への希望を見出せるように、学校全体で系統的に進路指導を行う。

《家庭・地域への働きかけ》

家庭学習の習慣を身に付けることができるよう、学習計画表の作成、家庭学習の課題の設定について学校で案を練り、家庭に協力してもらえるように引き続き取り組んでいく。